福部地区　地域づくり懇談会　　議事録

１　日　時　平成２７年１１月１７日（火）　１９：００～２０：２０

２　会　場　福部町中央公民館

３　出席者　地元出席者　　４４名

市側出席者　　２０名

深澤市長、羽場副市長、木下教育長、河井総務部長、秋山総務調整監、高橋防災調整監、田中中核市推進監、田中企画推進部長、大田経済観光部長、久野地域振興監、綱田都市整備部次長、高橋秘書課長

＜福部町総合支所＞宇山支所長、坪内副支所長（司会）、谷本市民福祉課長、吉田産業建設課長

＜事務局＞馬場協働推進課長、岡本協働推進課課長補佐、岡田協働推進課主任、國本協働推進課主事

４　中核市移行についての説明

（中核市推進監）※チラシに基づき説明

５　人口ビジョン・創生総合戦略についての説明

（企画推進部長）※チラシに基づき説明

６　地域の重要課題について

１　福部町幼小中一貫校(福部未来学園)について

＜地域課題＞

平成２８年度４月に幼小中一貫校の福部未来学園が開校となります。現在まで、幼小中一貫校推進委員会に教育課程部会、教育環境部会、啓発部会を設置し、毎月各部での１～２回の協議がされ、それを受け委員会を１０回開催（１１月開催を含む）しているところです。

校名は９月定例市議会で可決し、学園歌、学園章についても近々ご報告できることとなっており、同校では特色ある学校づくりをめざし、その一環として新設教科「みらい科」を設置し、「人間力」「国際コミュニケーション」を備えた人材づくりを目指す予定です。

施設面においても特色ある一貫校として、他校のモデルとなる学園をめざし、学年の垣根を越え児童、生徒が同じ空間で昼食がとれる多目的ホール（ランチルーム）等の整備をお願いします。

開校まで半年を切っておりますが、鳥取市のさらなる支援をお願いします。

＜担当部局の所見等＞

【教育委員会】

福部幼小中一貫校の施設整備にあたっては、児童生徒が集い、交流できるスペースが必要であり、そのスペースをランチルームとしても活用できるよう考えています。

施設整備の協議については、福部町幼小中一貫校推進委員会に設けられた教育環境部会において、地域・ＰＴＡ代表および学校教職員の方々の意見を伺いながら、検討を進めているところです。

（地元意見）

福部未来学園については、鳥取市から大変なご協力をいただきながら、平成２８年４月の開校に向けて順調に進めています。

学園歌と学園章も募集しました。学園歌は４０作、学園章は２０作の応募があり、現在、環境部会を中心に絞り込んでいるところです。できるだけ早く決めたいと考えています。また、特色ある学校づくりということで、新設教科「みらい科」を文部科学省に申請しています。

本日いただいている地域課題の回答を見ると、ほぼ地元の要望どおりの回答ではないかと思いますが、施設面において特色ある一貫校をつくっていきたいので、学年の垣根を越え、児童生徒が集って昼食がとれる多目的ホールの整備をお願いします。

９月１１日に、教育研究所所長や文部科学省の職員２名等の派遣を受け、学校施設計画・設計プロセス構築支援事業に係る事前打ち合わせ会を開催しました。その中で、せっかく全国に前例のない学校をつくるのだから、施設面においても全国のモデルになるような施設をつくってくださいと言っていただきました。ぜひそのようにしたいと考えています。

また、詳細な設計図等を検討しています。これも、なるべく早く教育委員会と相談しながら進めなければなりません。

一貫校のスタートは来年４月からですが、分散型のスタートになります。これは当初の目的とは異なります。校舎一体型の一貫校ができてこそ、当初の目的を果たすことになりますので、平成２８年度と２９年度の２年間で設備を完成させ、平成３０年４月からは校舎一体型の一貫校としてやっていけるよう、よろしくお願いします。

来年度から第１０次総合計画がスタートします。この中に、安全な学校給食の推進という項目があり、「食物アレルギー対策の実施など安全な学校給食の供給を図る」と記載されています。非常によいことだと思いますが、学校、あるいは学園内の給食センターで温かい給食を作り、皆が一緒に食べられるといった施設に対する鳥取市の基本的な考え方、方針があればお聞かせください。

（教育長）

子ども達が一堂に会して学習でき、ランチルームとしても活用できるスペースを確保していきたいと考えています。

全体の施設については、事前打ち合わせ会の中で教育研究所所長から、未来を志向していきながら「学校」という既存の姿にこだわらないものを考えていきましょう、とアドバイスをいただきました。今は、推進委員会等いろいろな方々の意見をいただきながら進めているところです。そういう意味で、既成の考え方ではないところから次の時代の学校というものを考えていきたいと思っています。

なお、福部町の給食は平成１９年に国府学校給食センターに一本化されており、そこから運ばれています。少し心配になって、給食が冷めていないかどうか校長に尋ねてみまし

たが、心配ないとのことでしたので、決して冷たい給食は食べていません。
　また、福部未来学園に限らず全ての学校に共通して、安心、安全な給食を提供していかなければならないと考えています。鳥取市は、平成２０年に策定した「鳥取市の学校給食の基本構想」に基づき、これからの学校給食の目指す方向や、子ども達の数の動向等も考えながら取り組んでいます。

２　多鯰ヶ池の観光振興による地域の活性化について

＜地域課題＞

　山陰海岸国立公園､山陰海岸ジオパークの鳥取砂丘の南側に位置する多鯰ヶ池は､近年、観光梨園、水蓮の鑑賞、お種弁天、カヌー教室、ＳＵＰヨガ等で、訪れる観光客が増えています。
　鳥取砂丘、多鯰ヶ池に隣接する浜湯山集落は、鳥取市過疎地域・中山間地域人材養成事業として、とっとりふるさと元気塾の支援を受け、観光資源を再発見し、地域を活性化する事業に取り組んでいます。
　当集落では、鳥取砂丘に訪れる観光客にらっきょう畑や観光梨園および多鯰ヶ池周辺を観光してもらえるよう、活性化に向けた委員会を立ち上げるなど、気運の盛り上げを図っています。
　このように砂丘周辺の活性化のためにも、多鯰ヶ池への誘導と、水辺に親しみ、憩いの場となるための遊歩道、展望台、トイレ、休息所等の環境整備の検討をお願いします。
　多鯰ヶ池のもつ地域資源としての可能性については、これまでも多くの人が認めてきたところでありますが、その潜在的価値を引き出すためにも、多鯰ヶ池周辺の整備は不可欠です。戦略次第では地域の活性化に大きく寄与するものと考えますので、多鯰ヶ池の観光振興に協力をお願いします。

＜担当部局の所見等＞

【経済観光部】

　地方創生を進める上で交流人口の増を図る観光は重要な施策であり、特に本市の観光の核である鳥取砂丘のさらなる魅力づくりは不可欠であると考えています。
　本市では、鳥取砂丘砂の美術館や山陰海岸ジオパークの取り組みに力を入れているとともに、砂丘ウォークやロングトレイルの取り組み、また民間で行われている砂丘地内のパラグライダーやヨガなど、新たな魅力づくりも行われているところです。
　また、環境省を主とする鳥取砂丘ビジターセンターの取り組みも行政・民間等で議論を進めており、東側（平成３０年度予定)、西側（平成３１年度予定）に拠点施設を２か所整備することとされています。
　本市の滞在型観光を進めるためには、鳥取砂丘を広く活用し、周遊性を高めていくことが重要であり、多鯰ヶ池のさらなる活用が必要と考えています。
　現在、多鯰ヶ池周辺の取り組みとして、鳥取商工会議所による看板整備・提言や地元の多鯰ヶ池活性化委員会によるワークショップ等が行われています。
　これらもふまえ、鳥取市としては、環境省、鳥取県、鳥取商工会議所、地元関係団体や地元地区の皆さんなどと多鯰ヶ池の整備・活用を議論する検討委員会を立ち上げることと

しており、その中で環境整備等について協議していきたいと考えています。

（地元意見）

福部地区は、お種弁天の管理や周辺の観光梨園など、長年にわたり多鯰ヶ池に関わっています。平成２５年の巳年の正月にはお種弁天でイベントを開催し、多くの観光客にお越しいただきました。

近年、砂の美術館やお種弁天の駐車場が整備されたおかげで、スイレンの花の鑑賞やカヌー教室、サップヨガなどで多鯰ヶ池を訪れる人が増加しつつあります。

観光資源としての多鯰ヶ池の魅力を地域の活性化につなげたいと考え、本年、多鯰ヶ池活性化委員会を立ち上げました。そして、とっとりふるさと元気塾の支援により、地区内外からの多くの人にお越しいただき、意見交換を行いました。この意見交換をふまえ、環境整備から入るとよいのではないかとのことで、１０月３１日には入り口周辺の木を伐採しました。こういった作業を定期的に続けることによって、人が来やすい環境を作るのが目的ですが、将来的には、池の周辺を散策できる遊歩道や周辺を一望できる展望台、トイレや休憩所なども整備し、訪れた人の憩いの場となるようにしていきたいという希望があります。しかし国立公園ということもあり、現状では実現が困難なため、行政の協力と検討をお願いしたいです。

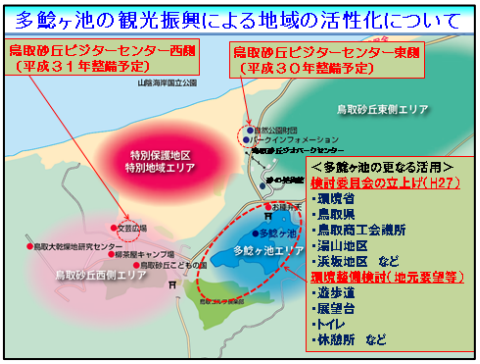
多鯰ヶ池にはいろいろな魅力があると以前から多くの人に言われてきました。潜在的な魅力を何とか引き出し、福部地区や鳥取市の活性化につなげていきたいので、お願いします。

（経済観光部長）

駐車場の整備などでは大変お世話になっていますし、保全運動やワークショップなどのさまざまな取り組みもしていただいています。本当にありがとうございます。

地方創生を進める上で、交流人口の増加は大きな効果があるため、市としても観光を重要施策に位置づけています。本市の観光の拠点はやはり砂丘であり、さらなる魅力づくりが不可欠と考えています。現在も砂の美術館や山陰海岸ジオパークの取り組みに力を入れていますし、ソフト事業でも、砂丘ウォークやロングトレイルの取り組みも始めています。また、民間によるパラグライダーやヨガなどの取り組みにより、新たな魅力づくりも付加されているところです。

現在、環境省を主として県と市、民間事業者や地元も含め、鳥取砂丘ビジターセンター整備の取り組みを進めています。東側には、平成３０年度完成予定で、現在の市営駐車場のジオパークセンターの所に、拠点となるビジターセンターをつくる計画であり、西側にはサブ拠点として、平成３１年度に拠点施設をつくる計画です。



滞在型観光として観光客により長く砂丘に滞在していただくためには、周遊性を高める必要があるということで、多鯰ヶ池エリアを含めた砂丘を広く活用する取り組みは、市としても重要と考えています。

現在も、鳥取商工会議所においては多鯰ヶ池周辺

に看板を設置されたり市に提言もいただいていますし、多鯰ヶ池活性委員会でもワークショップなどに取り組まれています。本市では、これらをふまえ、環境省、県、鳥取商工会議所や地元の皆様による、多鯰ヶ池の整備活用を議論する検討委員会を立ち上げることとしており、１１月末頃の立ち上げ予定で調整しています。その中で、砂丘周辺の周遊性の向上や魅力づくり、併せて環境整備などについても、いろいろ議論していきたいと思っていますので、ワークショップの中で出たさまざまな意見を反映していただければ大変ありがたいと思います。一緒になって議論し、平成２８年の夏頃までには方向性を出していきたいと思っていますので、よろしくお願いします。

７　市政の課題等についての意見交換（フリートーク）

（地元意見）

福部中心部の排水対策は、昔からの地区の念願です。昭和５４年頃からの県営事業により、川幅が今のような形に大きく変わりました。現在、若干実現に向かっているので安心していますが、今後の計画をきちんと決めていかなければ、周辺の民家や県道への浸水は解消されません。

商工会の辺りまでは、平成２９年の春にはほぼ姿が見えるということで地元は待っています。そこから上流の鉄道の辺りまでは今の改修の幅に合わせて拡幅され、箭渓川の方については塩見川との間をショートカットで結ぶ放水路を整備する計画のようですが、これらはまだ夢とでもいうのか、予算もどうなっているのか分かりません。取り組みが始まって４０年ほど経過しているので、この先のもう一歩について、市からも後押しをお願いします。

（深澤市長）

今後もしっかり取り組んでいきたいと思いますし、早期整備が図られるよう、県に対して引き続き要望していきたいと思っています。

（都市整備部次長）

平成１８年の豪雨の際には、駅前周辺地区等で、床上、床下を含め３５戸の浸水被害がありました。現在、鳥取県では、床上浸水の解消を目標として、国道９号線の如来橋部分と、箭渓川との合流点の２か所の狭窄部分の解消に向け鋭意整備を進めておられ、平成２８年度末までに完了する予定と聞いています。

県は、平成２０年に塩見川水系の河川整備計画を策定しており、その中で、事業期間を概ね３０年としておられます。今後の整備については、浸水被害を少しずつでも減らしていけるよう、暫定的に着手する方法も含め、方策を検討中だと伺っています。

また、内水対策は鳥取市が所管となります。内水の排水というのは、市街地にたまった水を河川に吐き出すことですが、現在は河川整備がまだ途中であるため、内水を吐き出し

ても河川の水が市街地に逆流する状況にあります。県では、現在進めている河川整備に伴って、どの程度河川の水位を下げることができるのかといった整備の効果について随時検証しておられますので、市としては、県の検証結果をもとに今年度中に内水対策を検討することとしています。

内水対策の工程については、県が年次的に整備を進める河川整備の状況に応じて、必要な対策を行いたいと考えています。また、先日、地域の皆様と降雨時の浸水状況や現地での問題点について意見交換を行いましたので、その内容等も含めて検討を進めていきたいと考えています。

（地元意見）

昨年、駟馳山バイパスが完成、開通しました。昨年の地域づくり懇談会で、海士インターチェンジを整備してほしいと要望しましたが、その後の進捗状況を教えてください。

岩美町との温度差が大きいと感じているので、そのあたりの状況も教えてください。

（都市整備部次長）

市としても、海士地内に新しいインターチェンジを設置することは、福部町地区の今後のまちづくりや砂丘周辺の渋滞対策、国道９号線から駟馳山バイパスに向かう交通の円滑化等に寄与するものと考えており、昨年と今年、重点事項として国と県に要望を重ねています。

県に現在の状況を確認したところ、現在県において新しいインターチェンジの必要性や設置の可能性を検討するための調査検討を行っており、今後、国土交通省と本市、岩美町などの関係機関と協議・調整を進めていきたいとのことです。岩美町との温度差を感じるとのお話ですが、実際のところ、県としてもまだまだ必要性や設置の可能性を検討中で、今後、岩美町も含めて関係機関との協議を行いたいと考えておられる段階です。

市としても、今後も継続して要望を重ねていくとともに、事業実施に必要な調整についても取り組んでいきたいと考えています。

（地元意見）

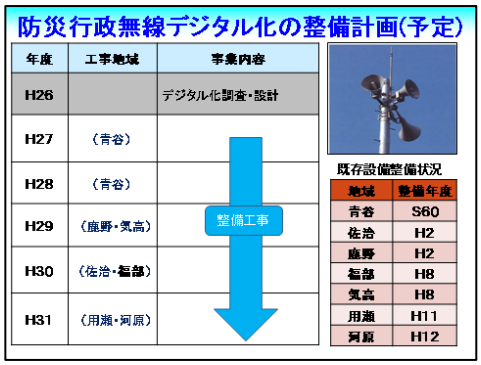
市では、平成２７年度から防災行政無線のデジタル化に向けた整備を開始しており、福部町も平成２９年度に整備されると聞いています。現在、福部町内の大半の集落で、防災行政無線を活用した集落内放送を行っています。デジタル化以降、この集落内放送が難しくなるとのことですが、スムーズな伝達ができるように方策をお願いします。スムーズに集落内に連絡を回すには、回覧等では非常に難しいと考えています。現在使用しているアナログ方式の機器を残してもらえると一番よいと思います。

防災、安全の観点から考えても、豪雨や台風時には、屋内で屋外放送が聞き取れないと思います。

（防災調整監）

平成３４年までにデジタル化に移行しなければならないという国の方針があります。機器の古い地域から整備していく計画で、福部地域は現時点では平成３０年から整備を行い

たいと考えています。デジタル化以降は、鳥取、国府地域と同じく屋外スピーカーのみの放送になり、現在各戸に設置されている戸別受信機は撤去していくことになります。



屋外スピーカーですので、たしかに雨や風などの気候状況によっては聞き取れない場合もあります。ただ、防災行政無線は、テレビやラジオ、メールなどたくさんある情報伝達手段の中の一つだと考えていただきたいと思います。防災行政無線が鳴っているが何を言っているか分からない時は、テレビやラジオをつけて確認していただきたいと思いますし、放送内容を確認できる電話番号を用意するよう考えています。

なお、親局は市役所本庁舎となりますが、それぞれの総合支所管内の個別の情報は総合支所から放送できるよう進めているところです。

（地域振興監）

国府地域以外の合併地域の行政防災無線は、それぞれの町ごとに別々の周波数で無線運用してきており、防災情報以外にも行政からの情報や地域の情報を放送している実態があります。デジタル化以降は無線の周波数が一本化されるため、おのずとこれまでの使い方には制限が出てくることをご理解いただきたいと思います。

行政からの情報については、市報やケーブルテレビ、チラシ配布等で積極的に伝達していますが、地域の情報に関しては、例えばＰＴＡの奉仕作業や冠水の注意喚起、関係団体からの放送など、地域によってさまざまな利用実態があります。そういった情報をどう扱っていくか、今後研究していかなければいけないと考えています。

（総務調整監）

地域情報の伝達手段の一つとして、鳥取市のコミュニティデータ放送の活用についてご案内します。

コミュニティデータ放送とは、ご加入のケーブルテレビのデータ放送の中にある「電子掲示板」という機能を使い、リアルタイムに必要な情報を掲載できるものです。ＮＣＮかぴょんぴょんネットのどちらかのチャンネルを選択すると、データ放送の画面が自動的に立ち上がります。その画面の「行政情報」を選択すると、鳥取市からのお知らせが確認できます。また、「地域情報」を選択すると「電子掲示板」が表示され、支所単位や地区公民館単位、町内会単位でのお知らせ等を文字として表示できるというものです。

各総合支所と各地区公民館については、入力するための登録が済んでいますので、電子掲示板を使用したいとなればすぐにでも使用できます。町内会については、福部町では４町内会が登録し活用されています。登録を希望される町内会があれば、事前に登録いただいてからご利用いただくことになります。放送は聞き逃してしまう危険性がありますが、電子掲示板は自分で情報を入手していただけるため、確実に見ることができるというメリットがあります。ケーブルテレビに未加入の場合は原則としてご利用いただけませんが、当地区は平成２６年１０月末時点で加入率が８６．７％と、他の地域と比較してかなり高

くなっています。せっかく活用できる機能がありますので、ぜひご検討いただきたいと思います。

（深澤市長）
いろいろな地域から、同様のご意見、ご質問をいただいています。
アナログ方式からデジタル方式への移行は必須で、屋外拡声子局と戸別受信機による防災行政無線を全市的に整備していかなければなりません。ただ、行政からの情報や地域の情報といったきめ細かな情報をいかに伝達していくかというのは、全市的な課題だと認識しています。いずれにしても、複数の情報伝達媒体を持っておく必要があると考えています。有線放送等を整備されている集落もありますが、いろいろな方法があると思いますので、今後しっかりと研究させていただきたいと思います。

（地元意見）
１週間か２週間に一度、中央公民館の図書室に本を借りに行きますが、図書室の前の天井が雨漏りしていて、バケツで受けています。
中央公民館は、住民が集まって文化活動したり、地域の活性化を図る拠点施設なのだから、雨漏りしないよう対策をお願いします。

（地域振興課長）
要望として承りました。

（担当課補足：生涯学習・スポーツ課）
中央公民館の雨漏り修繕については、平成２３年度に屋根防水改修工事の実施後、何度か雨漏りの報告を受け対応を行っていますが、効果が得られていない状況です。
平成２６年１０月にも雨漏りの報告があり調査を行いましたが、原因が特定できず雨漏りの原因の可能性が考えられる天窓部分の補修を行い、経過観察を行うこととしました。
その後、平成２７年７月にも雨漏りの報告があり確認を行いましたが、原因が特定できず、８月に天窓のねじを締めて、ねじの周囲に防水加工を行い経過観察することとしました。
しかし、平成２７年１１月に再度雨漏りの連絡があり、現場確認を行いましたが、この時も原因が特定できず、現在は原因特定に向け調査方法などを検討しているところです。
方針決定後は早急に調査を行い、修繕の対応を検討したいと考えています。

（地元意見）
市庁舎整備について、深澤市長なら前へ進めると思っていました。可燃物処理場も、深澤市長ならプッシュできると思いますので、よろしくお願いします。

８　市長あいさつ
一言お礼のご挨拶を申し上げます。
本日は大変お忙しい中、このように多数の皆様にご参加いただき、多くのご質問、ご意

見、ご提言をいただきました。また、最後には、私に対する励ましのお言葉をいただいたように思っています。

市庁舎問題は、５年ほど停滞したような状況もありましたが、１１月２３日に、いよいよ設計のプレゼンテーション、ヒアリング等が行われる段になりました。基本設計と実施設計については、早ければ年内に契約させていただく状況になってきています。

また、鳥取市はもとより、この東部圏域の非常に大きな課題である可燃物処理施設の建設についても、多くの皆様のご理解とご協力、ご支援をいただき、もう少しのところまできています。できれば、年内か年明けあたりに予定地の地元の皆様とお話をさせていただき、事業の推進に向けて動いていきたいと考えています。全力でこの大きな課題にしっかり取り組んでいきたいと、私も思いを新たにしているところです。引き続きよろしくお願い申し上げます。

本日、さまざまなご意見やご提言をいただきました。なかなかすぐ実現できないこともあるかと思いますが、本日いただいたご意見やご提言は、しっかり受けとめさせていただき、できるところからしっかり進めていきたいと思っています。

合併して、今月で満１１年となります。今、将来を見据え、皆様と一緒になって新たなまちづくりを進めていく時期にあると思っています。よろしくお願い申し上げ、お礼のご挨拶に代えさせていただきます。

本日は、本当にありがとうございました。